

研究主題 **カウンセリングを生かし、学び合う集団を育てる生徒指導  
構成的グループ・エンカウンターを通して**

金沢市立扇台小学校 山下 優子

1, 主題設定の理由

平成 10 年に改訂された学習指導要領，特別活動では，いじめ，不登校などの問題の遠因として，家庭や地域社会などにおける子どもの人間関係の希薄化に伴い対人関係のあり方が未熟になってきていることをあげ 解消のために様々な人間関係の体験が必要とある。

なかでも，子どもたちの豊かな人格を形成していくために，生徒指導のいっそうの充実と，そのための基盤としての学級が教師と子ども，そして子ども同士の良好な人間関係のもと，温かい雰囲気子どもたちが安心して自分の力を発揮できるような場であることが求められている。

その生徒指導の機能を実現させる具体策の一つが，「育てる」カウンセリングの多様なアプローチである(諸富 2001)ことから，学級を教育力のある集団=学び合う集団として育てるために育てるカウンセリングを取り入れることは有効と考える。

構成的グループ・エンカウンターは育てるカウンセリングの一つである。集団学習体験を通して，行動変容と人間的な自己成長をねらいとしている。この考えや手法を学級経営に生かすことで学び合う集団を育てられると考えこの主題と副題を設定した。

研究の目的

学び合う集団の育成のために，学級経営の中に構成的グループ・エンカウンターを取り入れるにあたり，学級集団のアセスメントの方法とそれに応じたエクササイズを選択と展開について探る。

研究の方法

1. 構成的グループ・エンカウンターについて文献等から学び，教育に生かす意義についてまとめる。
2. 的確な児童理解の方法を探る。
3. 構成的グループ・エンカウンターの授業実践を通してエクササイズを選択と展開について考察する。

研究内容

1. エンカウンターを教育に生かす意義

- ・ふれあい体験を通して自分に自信を持たせる。
- ・快樂原則を満たすには，ルールに従わねばならないことを体験を通して学ばせる。

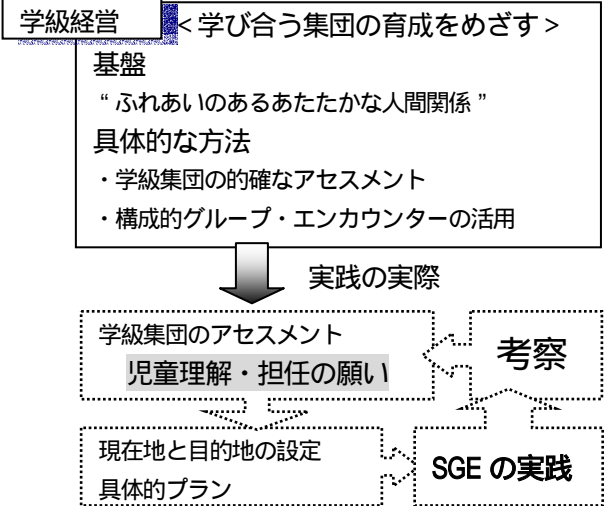
小学校において学級担任がSGEを学級経営に取り入れることで，学級すべての子どもたちに対して，その状態に応じたエクササイズを継続的に実施することができ，子どもたちが互いを尊重し，自分らしくのびのびと過ごせる学級集団を築くことができるといえる。

2. 児童理解の方法

- ・学級づくりステップ 1, 2, 3

- ・楽しい学校生活を送るためのアンケート(Q-U)
- ・自分の行動を振り返るアンケート(ソーシャルスキル尺度)

3. 実践研究



研究のまとめ

学級集団のアセスメントを的確に行い，その状態に合ったSGEを学級経営の具体策として取り入れることは，人間関係作りにおいて効果が見られ，学び合う集団の育成へ広がっていくことが推察される。

1, アセスメントの方法

学級集団のアセスメントにおいて担任による児童理解を補う方法として，Q-U とソーシャルスキル尺度を使うことは有効であった。

2, エクササイズを選択とプログラムの展開

特に重要なポイントは，次の点であった。

エクササイズを選択のポイント

- 対象とねらいが明確か。
- わかりやすく楽しい活動か。
- 活動中の児童の様子がイメージできるか。
- 心的外傷を与えないか。

プログラムの展開のポイント

アセスメントに応じてグループサイズやメンバー構成を考えておく。

抵抗(ルール破りや無関心)が予想される子や活動内容に対して，対応策を考えておく。

「グループ体験によるタイプ別学級育成プログラム」

河村茂雄 図書文化

たのしい学校生活を送るためのアンケート」(Q-U) 河村茂雄

図書文化

前掲書